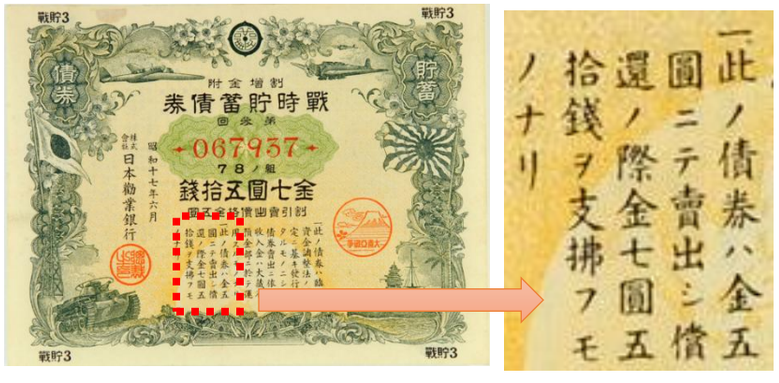
戦時中の貯金通帳と公債

1938 年（昭和 13）「報国貯金通帳（日の丸、日本列島イラスト）」
滝本嘉博家文書　（当館蔵）デジタルアーカイブへ



1942 年（昭和 17）「割増金附戦時貯蓄債券」
吉川充雄家文書　（当館蔵）デジタルアーカイブへ

解 説

1937 年（昭和 12）の**日中戦争**開戦以後、戦争の拡大とともに軍事費は急増しました。戦費の一部として国民の預貯金を充てることが計画され、貯金が奨励されました。翌年には国民貯蓄運動が開始されました。1941 年（昭和 16）制定の「国民貯蓄法」ではさらに組織的に展開され、国民は住んでいる町村や勤めている職場や、通っている学校などで結成された国民貯蓄組合の構成員となり、それぞれの組合で貯金をしなければなりませんでした。

同時に赤字公債も発行されました。広田内閣の馬場蔵相以後は無制限に国債が発行され、金融統制により市中での強制的な消化策がとられています。国債や紙幣の増発は激しいインフレを招き、国民生活を圧迫しました。1941 年度以降は国債残高が国民所得を超過し、1945 年度末には 1408 億円となり財政は完全に破綻しました。

戦後のインフレ対策（金融緊急措置令等）により、これらの資産（預貯金、国債）はほとんど無価値になるのです。

福井とのかかわり

1939 年（昭和 14）に日本全体での国民貯蓄目標額は 100 億円でした。そのうち福井県の割り当て分は 6 千万円でしたが、最終的に目標を上回る（達成率 118%）貯蓄を達成しています。福井県は 1938～1941 年まで、全国でも 1～2 位の貯蓄率でした。

しかし、戦火の拡大とともに貯蓄目標額と福井県への割り当て分も増大していきました。1945 年（昭和 20）には国民貯蓄目標額は 600 億円となり、そのうち 6 億円が福井県に割り当てられています。

資料の注目ポイント

資料（上）は、戦時中の貯金通帳です。掛け金として毎月 3 円を 36 回（3 年間）振り込むものでした（実際には 29 回目以降の入金の記録はありません）。満期支払い時も国債で支払われる仕組みでした。

資料（下）は戦時中に発行された公債です。売出しの金額（5 円）に対して償還時の金額（7 円 50 銭）と非常に高く設定されていることが注目されます。

関連資料

名称	概要	備考
「報国貯金通帳（日の丸、日本列島イラスト）」	滝本嘉博家文書（当館蔵） J0127-00009	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.digital-archives.pref.fukui.lg.jp/s/fukui/item/3240760
「割増金附戦時貯蓄債券」	吉川充雄家文書（当館蔵） C0037-00464	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-350734-1-p1
国民貯蓄の年次別状況 （1938～45 年度）	1938（昭和 13）～45 年（昭和 20）の国民貯蓄の目標額と達成率の推移を、全国と福井に分けて表示。	『福井県史』通史編 6　第二章　第一節に収録。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/07/kenshi/tuushiindex.html
コラム#福井の記憶に出会う 「授業で使える文書館資料ー新学習指導要領を見据えた活用例ー」	「戦時中の貯金通帳と公債」を用いた授業案を紹介。	当館 WEB にて公開中。 https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/01/20200724R/20200724.html

参考文献

- 『国史大辞典』　吉川弘文館
- 『福井県史』　通史編６　　第二章　日中戦争から太平洋戦争へ　第一節　戦争動員体制の強化　五　戦争と県民生活
- 『日本史（ＡＢ共通）　教授資料　研究編』山川出版社